

# 相国寺御用達

## 京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区宝町通上立売上ル

電話 (075) 432-2211

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 432-3101

# 圓明

平成二十七年 夏号(第一〇四号)

大本山相国寺  
相国会本部

暑中お見舞い申し上げます

平成二十七年 盛夏



◆表紙写真

### 相国寺 鐘楼「洪音楼」

天保十四年（一八四三）再建  
京都府指定有形文化財

法堂の東に立つ大型の鐘楼は「洪音楼」と呼ばれ、建物下部には「袴腰」が付き、その曲線美から安定感がある。

上記写真は楼内の鐘で、争いなどがなく、国家や人民が安泰であるようにとの願文が刻されており、法要時や毎朝夕定刻には専門道場の雲水がつく鐘の音が境内に響き渡る。

平成十九年（二〇〇七）には他の境内建物群と共に、京都府指定有形文化財に指定された。



まるにくん  
© 2015 相国寺



# 「大龍櫻」

作家・造園家で、全国の桜保存の「桜守」としても知られる佐野藤右衛門氏（第十六代）が発見し、有馬管長が命名した新種の桜である。平成二十六年に相国寺境内法堂西側の鐘楼「天響楼」の横に植えられ、本年四月には二度目の花をつけ、参拝者の目をなごませた。

第一教区 慈照院「朝鮮通信使 関連資料」  
京都市文化財指定を受ける

(詳細は、本文16ページ、教区だより50ページを参照)



「詩文絵画貼交屏風」一雙



卷子本「韓客詞章」全四卷



「韓客詞章」(正徳度)



## 御挨拶



宗務総長 佐分宗順

相国寺派各寺院の檀信徒、相国会の皆様、本派寺院ご住職をはじめ寺族の皆様方、暑中お見舞い申し上げます。本年も六月には恒例の観音懺法会かんのせんぼうえを厳修いたしました。この法会は六月に入り梅雨入りと蒸し暑い日々が続く中、連日声明と鉞の稽古に費やされます。歴代の相国寺の僧侶が苦勞した法会として、種々の記録にも残されております。昨年からは江戸時

代に行われていた、伊藤若冲の「動植綵絵どうしよくさいえ」三十幅を方丈に掲げての観音懺法会を復活させ、六月十七日の懺法会までの九日間、一般の懺法供養を受け付け、白衣観音を中心に莊嚴された若冲の「動植綵絵」の群生を前に、祖先に思いをはせ、現在の自己を見つめ直し懺悔と精進の機会といたしました。

懺法が終わり七月には京都の厄災、疫病を封じる大祭、祇園会が修行されますが、これも七月に入ると京都の町衆はその準備に忙しい日々を過ごすことになります。近年の猛暑が続く中の山鉾巡行は、熱中症で倒れる人が出る程過酷になってきております。この祇園祭が終わると、本格的な夏が到来し、八月は我々にとっては忙しいお盆の季節となります。

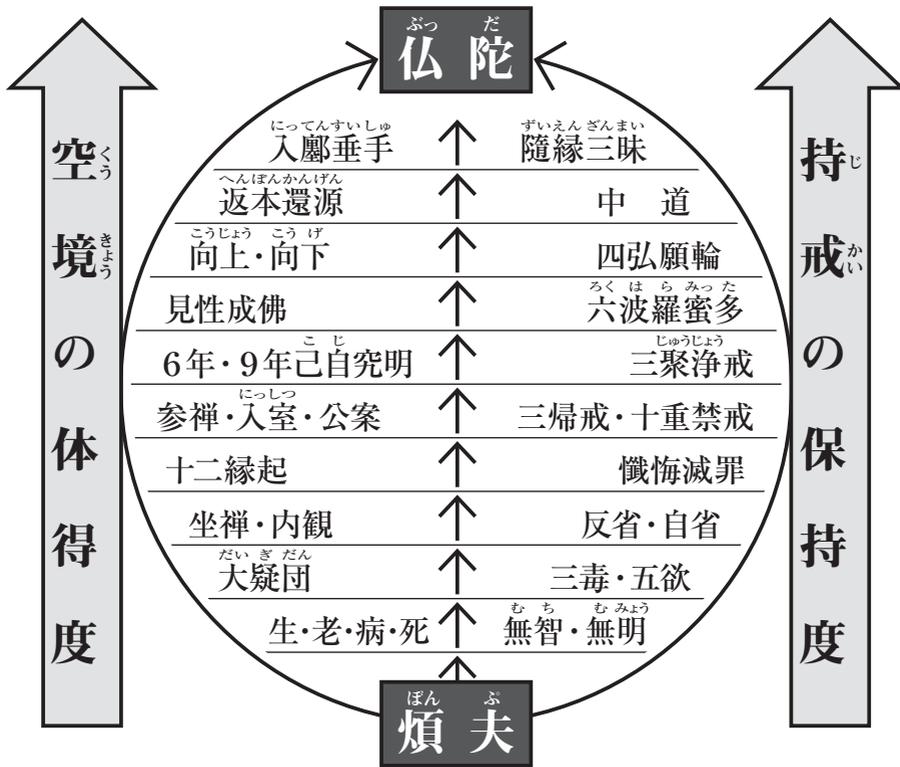
伝統を継承するということは、本当に大変な作業であります。それは長い風雪に耐え、伝え継がれたものだけが生き残り、洗練され、伝統、文化として認知され多くの人に受け入れられてきたのです。相国寺が六百年以上の歴史を継承してきたことは、先達の並大抵ではない経済的基盤に裏付けられた努力があったからだと推察できます。

禅の伝統には、釈尊が華を持って示したのをみて迦葉がにっこりと笑って応えたという拈華微笑ねんげみしやうの故事があります。本当に伝えたいことは言葉だけに頼ってでは伝わらない、言葉を超えたものがあるということですが、もう一つ重要な意味があります。それは伝える者と、受け取る者、それを取り巻く大衆、サンガという共同体の認知があって成り立っているということです。継承ということの原点がここにあると思います。

切り捨てられるものと洗練され引き継がれるものがあり、伝統の継承にはその覚悟と真摯な努力があって受け継がれる資格ができるのではないのでしょうか。

来年はいよいよ私どもの宗祖臨濟禅師の一一五〇年遠諱おんき、白隠禅師二五〇年遠諱の年です。達磨大師に始まる禅の伝統は何をどう伝えてきたのか、その歴史に学び、これからの禅仏教の発展に備えるよい機会となります。

めぐってきたお盆の季節を前に、心構えを新たに相国寺の興隆と発展に期したいと思えます。



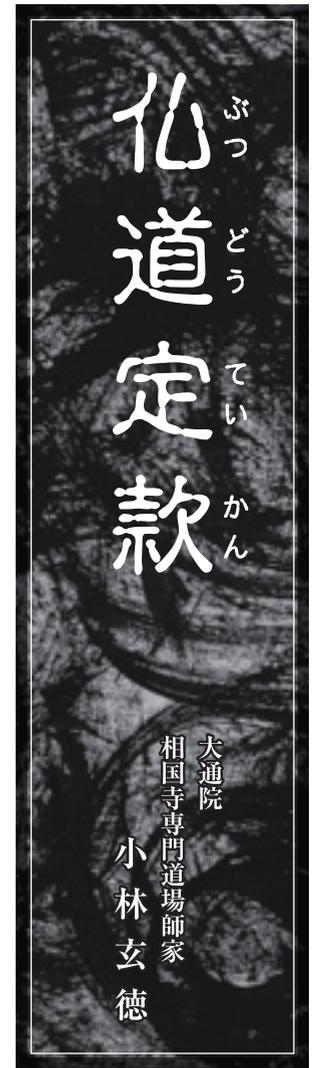
第二条 よくわかる仏道の骨格

1 祖 仏道の基本用語  
 仏教の宗祖 釈迦牟尼佛

2 対 その教え 十二因縁又は十二縁起・縁起の法  
 四諦・八正道

八正道 正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定  
 四諦 苦諦・集諦・滅諦・道諦（\*道諦とは八正道のこと）

佛道定款  
 — YOUR GUIDE FOR  
 DEATH EDUCATION —



3 (1)

三宝 佛・法・僧

3 (2)

三学 戒・定・慧

3 (3)

三業 身・口・意

3 (4)

三毒 貪(欲)・瞋(怒)・痴(怠)

3 (5)

三界 欲界・色界・無色界

4

四苦八苦

(1)

生・老・病・死

(2)

愛別離苦(愛する者と死別する苦しみ)

怨憎会苦(怨み憎む者と会う苦しみ)

求・不得苦(求める物が得られない苦しみ)

五陰盛苦(五蘊が盛んに生ずる苦しみ)

5 (1)

五蘊 色・受・想・行・識

身体又は物質

受 感覺感受作用

想 心に浮かぶ妄像・妄念

行 意志からの行為

識 認識識別作用

(2)

五欲 食欲 睡眠欲 性欲 財欲 名誉欲

6 (1)

六波羅蜜(六種の修行項目)

布施 施しの行を積む

持戒 戒律を保つこと

忍辱 逆境のときは忍耐すること

精進 常に一所懸命と精一杯

禪定(寂慮) 心静かに静寂を深める

智慧 体得した用のある真実の佛智慧

六道輪廻 天界・人間・修羅・畜生・餓鬼・地獄

無財の七施 眼施・和顏施・言辞施・身施・心施・床坐施・房舍施

基本三施 財施・法施・無畏施(恐怖を除き、安心を与えること)

八風吹不動

八風 利(意に契う)・衰(意に反する)

毀(不面前にて毀謗)・譽(賞讃する)

称(面前で賞讃する)・譏(非謗する)

苦(身心を悩ます)・楽(身心を悦ばす)

9

十重禁戒

(1) 不殺生戒(生物の命を殺さない)

(2) 不偷盜戒(盗みをしない)

- (3) 不貪婬戒(人の道に反する邪婬を禁ずる)
- (4) 不妄語戒(虚妄を語らない)
- (5) 不酤酒戒(一切の事物に酔ってはならない)
- (6) 不説過戒(他人の過失を説かない)
- (7) 不自讚毀他戒(自分を讃めて、他人を毀ることはしない)
- (8) 不慳法財戒(僧は法の施しを出し惜しみしてはならない、在家は財の施しを出し惜しみしてはならない)
- (9) 不瞋恚戒(忍耐を守り腹を立てない)
- (10) 不謗三宝戒(常に佛法僧の三宝に帰依し、苟にも三宝を謗り罵しることをしない)

10

十大弟子

- (1) サーリプッタ(舍利弗) 智慧第一
- (2) モツガラーナ(目犍連) 神通第一
- (3) マハーカッサパ(摩訶迦葉) 頭陀第一
- (4) アヌルッタ(阿那律) 天眼第一
- (5) スプーテイ(須菩提) 解空第一
- (6) プンナ(富楼那) 説法第一
- (7) カッチャーヤナ(迦旃延) 論議第一
- (8) ウパーリ(優婆離) 持律第一
- (9) ラーフラ(羅睺羅) 密行第一
- (10) アーナンダ(阿難) 多聞第一

〔仏道〕

仏道を歩むとは、車の両輪を回転させて道の先へ進むが如し。10ペー  
ジの「2 対」の項で示す通り。左の車輪(空の体得)と右の車輪(持  
戒力)が対応しながら一歩一歩、高い境地へと修行を進めていくこと。

仏道は六年、九年と継続することが最も肝要で中途にして弱音を吐く様では道  
は成就しない。特に文字禅は、本を読んで左の車輪を進め↑、仏陀になったと錯覚  
してしまう者をいう。文字禅は右の車輪の存在も気付かず、左の車輪も、空の体得  
には遠く及ばず、道は先へ進まないまま。従ってたちまち無情迅速の嵐が吹けば、  
凡夫の様相を丸出しになります。

「どれ程文字の上の解釈はしても、実地に坐禅をしないではそれは口頭文字禅で  
あって、口では大安心を得た様なことを言っていて心は常に色受想行識の五蘊  
に誘われて大自在の地に到ることは出来ない。真剣の場合に役に立たない。」

# 『朝鮮通信使 資料に関して』

慈照院住職 久山隆昭

去る、平成二十七年二月二十五日付の京都新聞(朝刊)に報道された慈照院の「朝鮮通信使関連資料」が京都市文化財指定を受け、三月三十一日付で指定書を受理いたしました。

折しも、日韓修交正常化五十周年を記念し、釜山博物館において国際交流展「朝鮮通信使と釜山」と題し展示・公開する為、資料の出品について依頼がありました。展示期間は、本年十月二十四日(土)～十二月六日(日)の予定で、出品作品は、「朝鮮書画貼交小屏風」<sup>(注一)</sup>・

「野馬図」一幅<sup>(注二)</sup>・「別宗祖縁和尚頂相」一幅<sup>(注三)</sup> (別宗祖縁 一六五七～一七一四・相国寺第一〇三世・慈照院第九世)・「韓客詞章」四卷<sup>(注四)</sup> であります。

<sup>(注一)</sup> 昭和六十年六月二十一日付 発見報道後、修復したものである。

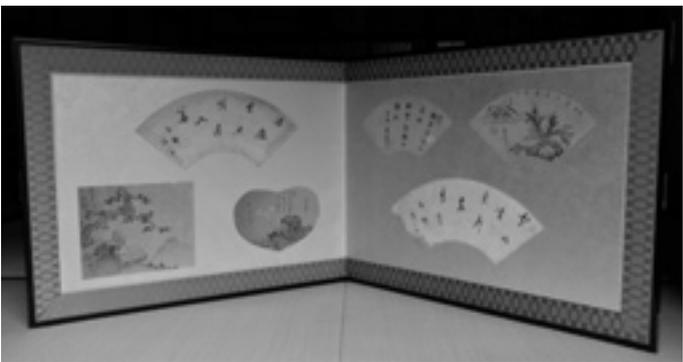
<sup>(注二)</sup> <sup>(注三)</sup> <sup>(注四)</sup> 当院従来よりの什物 特に「韓客詞章」は、研究者の間ではよく知られたものである。

更に、京都市が加入しているNPO法人「朝鮮通信使縁地連絡協議会」では、更なる友好関係の構築に寄与することを目的に、日韓共同で朝鮮通信使関連資料を「ユネスコ記憶遺産」に登録する活動を進めており、当院にも申請リストの掲載についての依頼があり、承認いたしました(「韓客詞章」)。

申請書の提出期限は本年六月十九日で、その申請書に基づいて国内公募における選考基準に基づき、小委員会及び総会に報告されます。その結果は、九月(予定)に連絡担当者に対して通知され、それにより九月～十二月に必要な応じて申請書の調整(和文)、平成二十八年一月～二月に

申請書作成(英訳)、三月にユネスコへ申請書提出となる運びです。

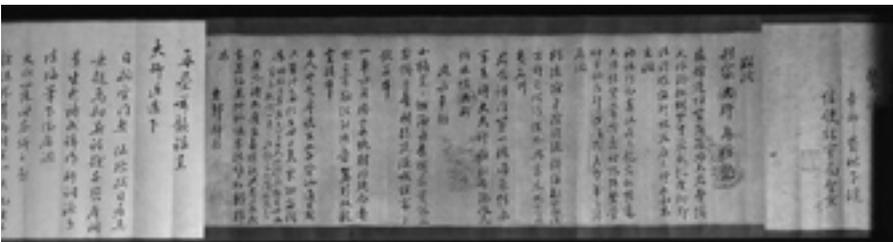
日韓共同で推薦されるこれらの記録資料は、先の日程とは別枠で最終的に平成二十九年の登録を目指しています。



「朝鮮書画貼交小屏風」



卷子本「韓客詞章」全四卷



「韓客詞章」(正徳度)

## 「韓客詞章」

「韓客詞章」は、朝鮮通信使を媒介として成り立つ両国文化交流の典型といえる詩文唱和の姿をよく反映している。縦二一・一センチメートル、横四十七・八センチメートル、高さ二十・八センチメートルの木箱の中に、巻物の形で四冊が保存されている。箱のふた裏には、「辛卯年（一七一一年）に別宗祖縁禪師が、幕府の命を受け通信使を江戸まで接伴しながら唱酬したことが世の中に伝わることで、今度は通信使が記録した詩箋のようなものを大事に重ね、詩軸四本を作り永遠に慈照文庫に置く。」という内容が盛られている。

詩軸の題目と保管箱の記録からわかるように、これらの作家は、全ての辛卯使行（二七一年）に参加した朝鮮の文士たちであることが特徴である。そこには、正使である趙泰億を始め、副使の任守幹、従事官の李邦彦の三人の使臣と、製述官、書記等の名前もみえる。彼らは七言詩七十七首、五言詩十四首、それから二編の賦と三編の書簡を残しているが、特に三使と製述官の詩が圧倒的に多い。そして、これらの詩に現われる唱和や次韻の対象が、別宗祖縁禪師にだけ集中されている点もまた特徴である。

（巻頭カラー2～3ページ、教区だより50ページ参照）

## 観音懺法が出来た背景

立畠敦子

これまで二回にわたり、六月十七日の観音懺法会の式次第と、本尊となる観音菩薩について見てきました。三回目の今回は、観音懺法の歴史と広く行われるようになった背景について考えてみます。

まず文献の上で観音懺法が認められる早い例として、『夢窓疎石語録』に、正安三年（一二〇一）夢窓が二十七歳の時に円通懺摩を行った記述が挙げられます。

「正安三年正月（一月）に道場を莊嚴（飾り付け）し、十七日に円通（観音）懺摩を勤修し、魔が現れないよう祈りました。（中略）二日目、本尊の水墨の観音菩薩（掛け軸に描かれた墨絵の観音菩薩）の表情がモワーンとしてきて、なんと笑いだされ、さらに比丘や比丘尼や夜叉や羅刹のように姿をかえ、その様子はまるで生きているようでした。」（意識は筆者による）

夢窓疎石は相国寺の勧請開山であり、後醍醐天皇を始め、足利尊氏・直義の帰依をうけた名僧であり、以降足利將軍家は夢窓の門派である夢窓派を重用しました。観音懺法

は、この夢窓疎石と石梁仁恭、清拙正澄の三老僧によって一三三四年までに作られた『鹿苑日録』に記されています。観音懺法を日本風にアレンジし、以降夢窓派の寺で広まっていく契機のひとつに夢窓疎石の若いころの不思議な体験があったのかもしれない。

その後、相国寺では前号で紹介した応永三年(一三九六)、十四年(一四〇七)山門建立の際の山門の上で円通懺法が行われた記録が見られます(『相国寺諸回向并疏』)。

しかし、このように禅林で観音懺法が行われる以前、宮中及び幕府の公的な法要は、天台系の「法華懺法」と言われる修法でした。これは普賢菩薩を本尊とし声明を加えて行われるもので、現在は大原三千院がその法をよく伝えていきます。後白河



院の保元二年(一一五七)や、貞和四年(一三四八)光厳上皇による後伏見天皇の供養、鎌倉幕府においても、持仏堂において法華懺法をおこなったことが、『吾妻鏡』に見られます。

将軍職が足利氏に代わってからも、室町幕府三代将軍足利義満は宮中で行われる法華懺法へ多く参加し(『康暦二年(一三八〇)』『愚管記』、応永六年(一三九九)『迎陽記』、応永一三年(一四〇六)『後光厳院三十三回聖忌』など)、自らも石清水八幡宮に参籠し法華懺法を行ったり(『応永一〇年(一四〇三)』『吉田家日次記』)、北山邸で大原三千院の懺法僧を招き法華懺法を行っています(『康暦二年(一三八〇)』『空華日用工夫略集』)。

足利将軍の周辺で観音懺法が行われたと見られる早い記録は、康暦三年(一三八一)室町第の中の勝音閣(観音殿)にての懺法の記事(『空華日用工夫略集』)で、観音殿にておこなわれていることから、観音懺法と考えていいでしょう。以降永徳二年(一三八二)正月一日、等持寺宝雲閣、同月十八日室町第の勝音閣で行われています(同書)。つまり、一三〇〇年代後半の観音懺法は、室町将軍邸宅や、足利氏と深い結びつきがあった等持寺などでの私的な法要であり、宮中や幕府が執り行う公の法要は法華懺法でした。

足利義満は応永元年(一三九四)に将軍職を息子義持に譲り出家しますが、そのまま実権を握り続け、応永一五年(一四〇八)五月八日に亡くなるまで続きます。ここからようやく義持は義満の影響下から脱し独自性を出し始めるようになります。

この義持は、禅宗をこよなく愛したことが知られる将軍でした。そして、義持の代から観音懺法の記述が増えはじめ、さらに足利将軍の周辺だけでなく、宮中や公家の間で

も広まり行われるようになりました。

応永二三年(一四一六)には伏見宮で相国寺僧を招いて観音懺法を行っており、応永三一年(一四二四)仙洞御所において初めて「観音懺法」が行われ、義持が参列しました(『看聞日記』)。また義持は清水寺で修懺し(『兼宣公記』)、さらに翌年には後円融天皇の三十三回忌において、法華懺法を行った後、観音懺法を行いました(『看聞日記』)。

加えて、応永二四年(一四一七)室町第の観音殿は毎月観音懺法を行うように取り決め、これに五山僧が参加し(『満濟准后日記』)、応永二五年(一四一八)南禅寺で祈雨のため観音懺法を三百三十三人の僧侶に行わせました(『看聞日記』)。

こうした懺法において、仙洞御所で行われた観音懺法の法具、本尊は相国寺から運ばれ、相国寺の僧侶が維那として中心となり執り行うなど、相国寺の寺衆が、さまざまな場面ににかけて観音懺法をおこない、その後京都五山で広くこの観音懺法が行われるようになりました。

この様に、義持は宮中で行われていた伝統ある法華懺法を意識しながら、相国寺を中心とした夢窓派の寺院を中心に観音懺法を定例化させたと考えられます。

それは義持が傾倒した禅宗において、その中心たる相国寺の僧侶に武家の法要として観音懺法を整備させ、前号で紹介した三十三観音図のように、画面の下に観音経の場面をもれなく描きこむという、これまで前例のない図様の観音図を作らせたのです。

これには義持の自分たち武家の法要として観音懺法を広めたいという、政治的・宗教的意図が強くはたらいたためといえるでしょう。

この観音懺法の整備、定例化、普及に大きな役割を果たした相国寺では、現在もその伝統を守り、弛まぬ努力によって伝承しています。今年もまた、六月十七日の観音懺法において、多くの方がその法要に会し、観音との縁を得ることができるとなっているのです。

『円明』第一〇三号 61ページ「文筆宗言」は「文室宗言」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

#### 立畠敦子

日本中世絵画史

一九九九年 九州大学大学院哲学・哲学科(美学・美術史)修了  
現 在 北九州市立小倉城庭園 主任学芸員

#### ●研究業績

「初期水墨画の研究 瀬戸内地域の仏画を端緒として」

(『鹿島美術研究』25 2008年11月)

「東福寺藏明兆筆三十三観音図に関する一考察」

(九州藝術学会誌『デアルテ』26号所載 2010年3月)

「『観音懺法』その成立と発展に関する一考察」

(『花園大学国際禅学研究所紀要』7号 2012年3月)

など、禅林内における画僧・仏画について考察を続ける。



## —その調理をさせていたただいて—

上田 幸男

本年二月の三日間、臨済宗連合各派布教団所属の布教師様の「布教師特別研修会」、そして五月の十日間、布教師を目指す和尚様の「特別住職字布教研修会」に、図らずも調理の責任を持たせていただきました。但し、五月はその約六割を担当させていただきました。和尚様方がお揃いになり食事されるその光景に、自分の感じたこと、思ったことを記させていただけようと思います。

順を追って記させていただきますと、「典座」と呼ばれる和尚様が、四人又は五人おられます。「典座」とは食事を司る責任者です。

期間中、朝食(粥座)、昼食(斎座)、夕食(薬石)の三度を用意させていただきますが、粥座を例に取り上げますと、午前七時の定刻に食事が始まります。毎日の食事開始時刻は、斎座の十二時、薬石の十八時ときちんと定刻に食事が始まります。

粥座の十分前に、ごはん味噌汁をおつけするのでありますが、副菜はすでに典座さんが配膳を済まされております。準備が整った直後に「拆」が打たれます。「拆」とは拍子木のことで、禅寺では拆によって様々な合図が報らされます。

五月の研修会では二十六名の研修生が、食堂へ順を正されて入って来られました。一人や二人遅れて来られると言うことは、期間中一度もございませんでした。食堂に入られる前から合掌のまま、最終の方が食堂に入られるまで直立されておられ、「拆」が打たれて皆さま着席されます。即、般若心経のご唱和、続いて食事のお経が読まれますが、私は「食事五観文」のみ聞き取ることが出来ました。ご唱和中に数粒のご飯粒、「生飯」を木皿に取っていかれます。餓鬼や鬼子母神に供する為、取られた「生飯」は小鳥に供されます。そして食事が始まります。その食事の静かなこと。二十六名が揃って食されておられるとは、とてもとても思えません。

このことで、私は若い頃に強烈な思いをしたことがございます。僧堂(専門道場)で、三百人程の出齋行事がありました。当日、台所は人人人であり、その明くる日に、私は残った容器を一人で取りに行きました。



僧堂は、行事当日と違って全く静かなことでありました。残った容器が、台所のどの辺りに置いてあるかは大体見当が付きません。昨日の行事の続きのように深く考えずに、台所は静かで誰もおられないようだと思えば戸を開けました。

そうしますと、雲水さん(修行僧)が三十人はおられたでしょうか。両側に座って齋座の真つ只中だったのです。残った容器が置かれていると思ったところは、食堂であったのです。

一番手前の雲水さんが、私に「ギョロリ」と向けられた眼は、今もって忘れられません。思わず、平身低頭、お詫びいたしました。

今回の研修会期間中に、典座の責任者の方にお話を得る機会がございました。

「おはし」のことです。研修会中、初日の薬石よりはじまり、最終日の粥座までその「おはし」を洗って使用されるのです。

そして言われたことは、「食事をするというのは、生きていくもの、野菜でも、肉でも、魚でも、人間は適当に切ったり焼いたりして食しているんですね。おはしもそうでしょう。生きていく樹木を、適当に切って使っている。」

命あるものをいただいている、使わせていただいている、決して無駄にしないようにと。それは「私たちは生かされているのだ」ということでありましょう、と教えていただきました。

(精進料理 上幸店主)

# 釈迦に説法

演劇塾 長田学舎 西村諭士

僕は劇団おさだ塾で芝居の勉強をしている売れない俳優です。二〇〇〇年から劇団にお世話になり、今年で三十九歳になります。(とはいえ、秋の「町かどの藝能」の公演の時以外は、ほとんど行けていないのですが)気が付けば人生は、マラソンでいうところの折り返し点に至ってしまいました。しかしながら、これといった結果も出せず、性懲りもなくアルバイトを続けながら某事務所に所属したりして芝居を続けています。

こんな生活を続けていますと、お盆の時期は、いつも以上に親の事やこれからの人生の事を考え、真夏の太陽とは裏腹に、何か感傷的になってしまいます。

父母共に七十歳を過ぎ、足を引き摺り歩く姿を見るにつけ、いよいよだな、と時刻表と時計を見比べてしまいます。親がこんな状態でありながら、しかし、芝居に對する踏ん切りが未だにつきません。

半ばヤケになってきているのか、退くに退けないのか。続けたくても、ご縁が無くなれば辞めざるを得ないだろう、と思っているのが、ズルズル続けている一番の理由かも知れません。

そうしますと、何故にここまで芝居に魅せられたのか、とどうしても自問します。功名心や自尊心を満たしたいのか。

確かにそれはゼロではないと思うのですが、どうしてもそれだけではないような気が、ここ数年しています。

そこで、阿呆な脳でいろいろ思いを巡らせて、辿り着いた答えは、僕にとつての芝居との関わりは、仏教との関わりの中のツールではないか、という思いです。

随分前に本紙『圓明』でも書かせて頂きましたが、僕の母は大変信仰が篤く、僕の子供の頃は、朝晩神棚と仏壇に般若心経を三回あげ、滝に打たれたり、火渡りを僕達兄弟に強要したり、挙げ句の果てに、我が家が安泰なのは私のお陰、という始末でした。

そんなこともあり、宗教というものには、かなり早い時期から嫌悪感を覚え、仏は死んだ、と息巻いていました。

しかし今、僕は京都市内のあるお寺で、寺男としてアルバイトしています。お墓の掃除、草引き、本堂の掃除などしているのですが、たまに事務所から俳優の仕事が入ってきます。それは急な事が多く、「明日の撮影入れる？」や、商業演劇の巡業となれば、二カ月お休みを頂かないといけない事もあります。そんなイレギュラーな勤務のお願いにも、そのお寺は、「頑張ってくださいや〜」と送り出して下さいます。このお寺をクビになれば、芝居の活動も即終了です。子供の頃に唾を吐いた、仏様のお慈悲に助けられています。

人生とは皮肉なものだなあ、とつくづく感じます。

ですが、過去は過去として、折角お寺にお世話になっっているので、少しは仏教にも触れてみようと思ひ、仏教関係の書籍を読みますと、これがまた面白い事に

気付きました。

まずはお釈迦様の生涯に触れてみるワケですが、改めて認識したのが、悟りをひらかれたのが三十五歳だとか。おお、すると僕にもまだ可能性が、なんて思っ、知り合いのデイトレーターにお話すると「お前とお釈迦様を同列にするな」と一蹴。

そんな感じで仏教に触れていきますと、僕なりにお釈迦様の教えとは何だろうと思いうワケです。その中で最近至った考えは、究極の処「自他の別が無くなる」というのが、沢山あることが大事な教えの一つではないか、という考えです。

お釈迦様の言葉をみても、出家した信者には、小我を滅する方法を教え、在家の信者には優しく寄り添われている、そんな印象を受けます。苦しみからの解放を示して下さっていると思うのですが、その苦しみの根源は、お金が有るか無いか、健康か病気が、持っているかいないか、等々を幸せの尺度にしている、人の心そのものと仰つてられる気がします。

心が根っこか、と思うと、どうも外界と想っているものが自分で、自分と思っっているものが外界ではないか、という気がしてきます。

中東での殺し合いが気になる人がいれば、アイドルグループの中央に誰が立つかが気になる人もいます。

両者の現象は当事者の心の投影により、その現象が問題化されます。



心が投影されない現象はその人にとっては問題化されず、現象たり得ません。つまり、外界で起こっていると思っっているものは、自分の価値観を投影する鏡のようなもの、自分自身という事が出来て、自分だ自分だ、と考えている自分は、ある人の価値観を投影する為の鏡、外界での現象、と思いうワケです。

すると、子供の頃、母の背中に見た鬼子母神の相は、母の背中にあつたのではなく、僕の心の中にこそ鬼子母神がいたことに気付かされます。そう考えますと、色々な疑問が氷解していきます。

例えば「バチが当たる」。子供の頃、悪いことをすると、決まって「バチが当たると！」と怒られました。子供ながらに、神さんや仏さんは器が小さいなあ、と思っっていました。しかしそれは大きな間違いで、不敬なことをしたから、神さんや仏さんが報復するのではなく、不敬なことが出来る心の状態だから、柱の角に足の小指をぶつけたり、自分にとつて悪いこと、バチが当たるのでしょうか。

また、宮沢賢治は、世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はありえない、と言っただけですが、確かにそれほど素晴らしい事はないのですが、多分それは無理な話で、幸福にせねばと思っっている人には、外界に不幸な世界が映っっているという事で、見えるものが不幸だから何とか幸福にしないと、と思っただけに見えるものが不幸に見える、という負のスパイラルに墮ちていくのでしょうか。

問題の根本が人の心にあるという、じゃあ無関心になればいいのか、と思っ

ですが、それは大きな間違いで、無関心は結局自分さえ良ければそれで良い、となり、それは自他が完全に乖離した最悪の状態、無明の状態になるのでしょうか。

自他の別が無くなる、というのは非常に難しいと思うのですが、その入り口は、他人を思いやること、だと思えます。

自分の体を傷付けたくない様に、他人の体も自分の体と思いやる事が出来れば、他人に対してそうそう悪い事は出来ません。

こいつイケスカンなあと思っても、ふとその自分の心を見つめると、意外とイケスカンなあと思っている部分が自分の中に有ることに気付きます。嫌いな人の嫌いな部分は、自分自身の嫌いな部分だと見えてきます。

でもやっぱりその人嫌いなんですが(苦笑)。ここが、凡夫の凡夫たる由縁なんですよ。

不思議なご縁で仏教に触れ、こんな風に思う様に至ったワケですが、何故これが芝居と結びつくかと言いますと、おさだ塾の創立者、長田純先生の演技論の核は、ここにあると解釈しているからです。

毎年秋に、相国寺内般若林で公演している「町かどの藝能」。その中に生きている芸商人さんの忘れてはならない教えの一つが「思いやり」です。お越し頂いたお客様を思いやり、商う商品を思いやり、仲間を思いやる。自身の心と体を使い思いやりを学ぶ。それが台本を読む際にフィードバックされます。この人物は何を思っ

ているのだろう。何を感じているのだろう。どうしてこの言葉を発したのだろう。活字で書かれた人物を思いやるワケです。ひたすら思いやって、台本に書かれた人物の喜びや悲しみを、我が事として感じるワケです。

これ、自他の別が無くなるワケです。まあ、その境地には、つま先すら入っていない状況ですが(苦笑)。

苦しみの原因が心にあるとすれば、僕自身の苦しみは、芝居に対する執着以外なものでもないでしょう。ですが、この執着心に仏教が出逢うと、それが縁になります。ザク口よろしく。

恐るべしお釈迦様。



因みに、僕がお世話になっているお寺は曹洞宗です。  
で、道元さんの好きな言葉、

「仏道を習ふというは、自己を習ふなり。自己を習ふというは、自己を忘るるなり。自己を忘るるといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり」

で終わりますと、バチが当たりますので、

「大哉心乎」 栄西禪師

といいますか、高卒の阿呆が、臨済宗の機関誌で持論を展開するとは、これが本当の、釈迦に説法。

合掌

秋のおさだ塾の自主公演のお知らせ

観客完全参加の終日野外劇

『町かどの藝能』その四十一

「般若林」のお庭に入っすぐの木戸を一步くぐると  
其処は江戸時代の京の都――

芸商人の芸と商い、観客の笑顔に溢れる

江戸時代の縁日にタイムスリップ

平成二十七年 十月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日) 十一時〜十六時 於・般若林(相国寺北門前町)

本山だより (平成二十六年十一月〜平成二十七年六月)

### ○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に韜光室小林老大師、佐分宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

### ○布教師新人研修会

一月十九日、臨済宗連合各派布教師会の新人研修会が開催された。当日は、全国より布教師会所属の布教師十一名、会長以下事務局諸師が参加され、承天閣美術館二階講堂にて課題をもとに研鑽を積まれた。

### ○臨黄合議所理事会

一月二十二日、臨黄合議所理事会が開催され、佐分宗務総長が出席した。



布教師新人研修会で挨拶する矢野教学部長

○第十回臨黄教化研究会

二月三日、四日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第十一回臨黄教化研究会が開催され、本派からは教区順に佐分昭文師(第一教区豊光寺副住職)、澤宗秀師(同林光院副住職)、荒木泰量師(同光源院副住職)、平塚景山師(同養源院副住職)、佐々木契堂師(第三教区天正寺住職)、加藤幹人師(第四教区南陽寺住職)、鈴木元浩師(同潮音院住職)、松下恵悟師(第六教区永徳寺住職)の八名が参加、また開講式と基調講演には佐分宗務総長、矢野教学部長も出席した。また基調講演後、班別で行われる分科会では、矢野部長も加わり盛んな討議が行われ、他派の和尚方と共に研鑽を積んだ。

○臨済禅師・白隠禅師遠諱大法会参与会

二月二十日、承天閣美術館二階講堂に於いて臨黄合議所による遠忌大法会の参与会が開催された。全国の専門道場より師家十九名

と法要・接心部会の座長や委員などから構成される合議所遠諱局が参集し、本年三月から五月に各専門道場で順に開催された報恩坐禅会や来年三月に行われる修行僧による報恩接心と遠諱事業について話し合いがされた。本山からは総裁である有馬管長、実行委員長である佐分宗務総長と教学部が出席した。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会

二月二十六日より二十八日まで、本山に於いて布教師特別研修会が開催され、全国より臨済宗連合各派布教師会に所属する布教師五十八名が参集した。安単、斎座<sup>さいざ</sup>後、方丈にて開講式を行い、布教団本部総鑑である有馬管長の垂訓、総茶礼などを経て研修生は承天閣美術館二階講堂で研修を開始した。

また、同本部理事長の佐分宗務総長、事務担当の矢野教学部長、江上教学部員と布教師会理事、各山理事は会議室で理事会を行った。

翌日研修生は相国僧堂において小林老大師



布教師特別研修会で提唱する小林老大師



遠諱参与会で総裁挨拶をする有馬管長

による『臨濟録』の提唱を拝聴し終日研修、最終日は朝課、粥座、掃除後、法堂と承天閣美術館を拝観・見学し、方丈での閉講式に出席した。三月、四月の春巡教を行う布教師には巡教任命書が配布された。来年度も相国寺を会場に同研修会が開催される。

今回本派からは、牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)、福場宗康師(第五教区萬福寺住職)、松本憲融師(第六教区光明寺住職)の各布教師が参加し研鑽を積んだ。

#### ○禅文化研究所理事会

三月六日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

#### ○第一教区総会

三月六日、第一教区総会が管長猥下以下第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計十八

名が出席して開催された。

#### ○春期巡教

本派布教師による二十七年度定期巡教は、福場宗康師(第五教区萬福寺住職)が三月十九日に滋賀県高島市の東福寺派一カ寺を、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)が三月三十一日(四月八日)にかけて福岡県福岡市、糸島市の大徳寺派寺院八カ寺、東福寺派一カ寺を順に巡教した。

#### ○定期宗会

三月十日、各教区から登山した七名の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十七名が出席のもと、平成二十六年定期宗会が本山会議室で開催された。有馬管長の入場後全員で開山諷経、続いてご挨拶をたまわった後、大谷昌弘師(第三教区福圓寺住職)を議長とし審議に入った。平成二十五年定期宗会、相国寺本山決算報告、二十七年

度相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館平成二十五年決算・事業報告、二十七年度予算案・事業計画案が承認可決された。

その他の案件として、本年秋季に予定されている相国寺東京別院の落慶法要の計画と、前年度の同会で協議承認された小林玄徳老大師の「視家開堂式」の延期が協議され承認された。

#### ○焼骨灰供養法要

三月十七日、方丈において京都仏教会と京都中央葬祭業協同組合の主催による京都市中央・宇治市斎場「春季焼骨灰供養法要」が昨年に続き厳修された。

開式に先立ち矢野教学部長が法話を、続いて有馬管長を導師に佐分宗務総長以下内局員が出頭、宮城泰年京都仏教会常務理事の弔辞に続いて法要が行われた。会場には、昨秋からの半年間に京都市・宇治市で亡くなられた方の遺族や関係者が訪れ、方丈室内や縁側は満席となり、法話と法要を通じて心静かに故人の冥福を祈った。



定期宗会で議事に先立ち挨拶する有馬管長



開会式で佐分宗務総長とお経を読む参加児童



書院で坐禅体験



骨灰供養法要で法話をする矢野教学部長

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌  
三月二十九日、第三教区瑞林寺(三重県津市・長谷寺高山宗親住職兼務)では開山毎歳忌が厳修され、鈴木承天閣美術館事務局長と江上教学・庶務部長が拝請を受け出頭した。  
(教区だより54ページ参照)

○第四・第一教区合同少年・子供研修会

四月二日、第四十六回・第四教区若狭少年研修会と第五回・第二教区子供研修会が、本年も合同開催で本山方丈・大書院にて行われた。今回は学童五十五名、寺院十一名、役員十一名の計七十七名が参加した。登山した少年少女たちは、方丈で般若心経、消災呪を唱え、佐分宗務総長の法話を聞き、書院では教学部指導による坐禅を体験した。また、参加記念として本山より数珠とクリアファイルが送られ、別室にて本山職員お手製のカレーライスを作法に従って頂いた後、それぞれ次の目的地へ向かった。

○報恩坐禅会

四月五日、平成二十八年春に厳修される「臨濟禪師一一五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱<sup>おんき</sup>」を記念し、その関連行事の一つとして報恩坐禅会が相国僧堂にて行われた。参加者は、禅堂での坐禅だけでなく、作法に従い齋座<sup>さいざ</sup>(昼食)をとり、禅修行の一端を味わった。この坐禅会は広く一般を対象としたもので、三月から五月にかけて臨濟宗・黄檗宗の本山や専門道場計二十三カ所で開催された。

○布教師特請

本派布教師の松本憲融師(第六教区光明寺 閑栖)が、特請により以下の日程、行事に合わせ出講し法話を行った。

四月十五日

梅林寺専門道場(福岡県久留米市・妙心寺派)入制開講前

五月三日、四日

延福寺(愛媛県松山市・妙心寺派)秘佛御

開帳法要

○臨黄合議所理事会

四月三十日、午前十一時より本山会議室において、臨黄合議所理事会が開催され、臨濟宗黄檗宗各本山より宗務総長、合議所事務局が参集した。

○第八回 特別住職学布教研修会

五月九日より十八日までの十日間、本山に於いて臨濟宗連合各派布教団本部「第八回 特別住職学布教研修会」が開催され全国各寺より二十一名の僧侶が参加した。開講式では布教団理事を務める各山宗務総長、教学部長、布教師会会長、同会幹部も列席し、方丈において諷経後に布教団本部総鑑である有馬管長の垂訓、総茶礼などを経て研修生は承天閣美術館二階講堂で実習を開始した。

研修中は、法話・説法・布教の実習だけでなく、関西大学教授・相国寺史編纂室顧問の原



坐禅中の参加者を検単する小林老大師



報恩坐禅会で小林老大師の提唱を聞く参加者

田正俊氏による講義や小林老大師による『臨濟録』の提唱も数回にわたり行われた。

九日目の試験説法、総評を経て、最終日には参加者全員が閉講式に臨み、祝斎後分散となった。今回本派からは、平塚景山師(第一教区養源院副住職)、牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、松本昭憲師(第六教区光明寺住職)の各師が参加し研鑽を積んだ。

#### ○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(小出量堂執事長)では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ一山尊宿、関係寺院僧侶により諷経がなされた。

#### ○相国会本部役員会

五月二十二日、午後一時より本山会議室において、平成二十七年相国会本部役員会が開催された。般若心経一卷を諷経後、相国会



議事を前に挨拶された有馬管長

総裁の有馬管長、副総裁の佐分宗務総長よりご挨拶を賜り、引き続き第二教区理事の波多野外茂治氏を議長に選出して審議に入った。平成二十六年度事業・決算報告、二十七年度予算案、事業計画案がそれぞれ承認可決された。当日の出席者は左記の通り。

	理事	顧問
第一教区	片岡 匡三	平塚 景堂
第二教区	波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区	小川 武義	大谷 昌弘
第四教区	伊藤 彰	穎川 孝生
第五教区	勝部 和美	延本 輝典
第六教区	欠 席	欠 席
他、宗務総長以下内局員四名		

#### ○日田辯財天春季大祭

五月二十五日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭並びにお火焚祭が厳修され、有馬管長を導師に、小出慈照寺執事長、

山本財務部長、佐分財務・庶務部員と第二教区より牛江宗道師(竹林寺住職)が出頭して大般若が転読された。

#### ○禅文化研究所理事会

五月二十九日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

#### ○二十七年春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、法堂、方丈、宣明(浴室)を公開し、一七、八九五名の参拝があった。秋期特別拝観は、九月二十五日より十二月十五日まで法堂、方丈、開山堂を公開の予定である。

#### ○観音懺法会「ご先祖追善供養」

昨年に続き伊藤若冲筆の「動植綵絵」複製画三十幅などを、懺法会に先立つ六月六日から十四日までの九日間、方丈に特別に掛けて

来訪者を受付し、「ご先祖追善供養」を行った。

### ○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。

諸役は次の通り。

#### ◆役割配

導師どうし 哲永東堂(慈照院副住職)  
香華こうげ 正道西堂(眞如寺住職)  
自ず 普廣閑栖大和尚  
打磬たけい 賢明西堂(是心寺住職)  
太鼓たいこ 雅晶東堂(普廣院住職)  
大鈸おおぼち 昭文座元(豊光寺副住職)  
中鈸ちゅうぼち 宗秀座元(林光院副住職)  
小鈸こぼち 泰量座元(光源院副住職)  
維那いのう 豊光和尚

### ○臨済宗連合各派布教団本部理事会

六月二十六日、午後一時より担当本山であ

る相国寺において布教団本部理事会が開催された。全国の臨済宗十一本山から宗務総長、教  
学部長と布教師会事務局の二十名が参集。

会計を担当している本派教学部より平成  
二十六年年度の決算審議、二十七年年度の予算案審  
議、二十八年年度の布教師派遣割り当て、第八回  
特別住職学布教研修会の報告などが行われた。

### ○同宗連第一連絡会

六月三十日、宇治市の萬福寺(黄檗宗大本山)  
で、二十七年第一回同宗連(『同和問題』にと  
りくむ宗教教団連帯会議)第一連絡会が開催  
され、矢野教学部長、江上教学・庶務部長が出  
席した。



## 坐禅会のご案内

### 本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催  
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を  
対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。  
第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、  
それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。  
維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の  
弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、

前日までに電話連絡をお願い致します。

(電話〇七五―二三一―〇三〇一)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

### 東京維摩会

ゆいまかい

平成二十七年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院・庫裡事務棟一階

### 有馬管長坐禅会

九月十二日(土)、十月十日(土)、十一月二十八日(土)、十二月十二日(土)

(八月は休会です)

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

### 小林老師坐禅会

八月二十二日(土)、九月十九日(土)、十月二十四日(土)、十一月二十二日(日)、  
十二月十九日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺東京別院(電話〇三三四―〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 庫裡事務棟外観



TEL 03-3400-5858

会場入口：前入口より50m南側  
会場：庫裡事務棟 1階  
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○慈照院文書が京都市文化財指定登録へ

慈照院(久山隆昭住職)に伝来する江戸時代の朝鮮通信使に関する文書をはじめ、合計百四十九点が平成二十七年三月三十一日付で京都市文化財に指定登録された。

朝鮮通信使は、相国寺、鹿苑寺の開基でもある室町幕府三代將軍足利義満公が派遣した使者と国書に対する返礼として、李氏朝鮮より日本へ派遣された外交使節団として始まるが、豊臣秀吉による朝鮮出兵により一時期中断を経て江戸時代に再開されたものである。江戸期には、対馬藩の仲介により慶長十二年(二六〇七)の第一回から計十二回の通信使が派遣され、江戸へ徳川歴代將軍の祝賀のためおもむいた(十二回目は対馬で差し止め)。

のが縁で、初日には御年百歳の大井際断管長猥下も来寺され「半僧坊の御分身」をご覧になった。四日間とも森田浄圓前宗務総長ほか内局和尚、同派末寺和尚の引率により、多くの檀信徒に法堂「大雄殿」や半僧坊を祀る「圓通殿」をお参り頂いた。

○眞如寺「半僧坊大権現」御開帳

五月十七日、眞如寺において昨年に続き鎮守の半僧坊大権現御開帳大祭が行われた。本年は法要に先立ち、指物師の大矢一成氏が作成した木製「葉うちわ」の奉納があり(半僧坊は葉うちわ紋)、矢野謙堂師(大光明寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀師(林光院副住職)のほか縁故寺院が出頭し大般若祈祷を行い、半僧坊大権現御真言を参列者全員で唱和した。法要の他に庭園公開とお茶席、手作り市も合わせて開催され、境内池のカキツバタが花を添えた。尚、来年は五月十五日(日)の予定である。

また通信使は、儒教などの宗教や思想、絵画、工芸、芸能をはじめとする様々な副産物ももたらし、今回指定された慈照院所蔵の資料は江戸まで同行した同院第九世の別宗祖縁禪師(べつしゅうぜん)に贈られた詩文や書画など、通信使との交流を知ることができる史料として貴重なものである。(巻頭カラー2〜3ページ、本文16ページ参照)

○方広寺派大井際断管長猥下、

同派檀信徒が眞如寺「半僧坊」を参拝

三月二十四日から二十七日までの四日間、山外塔頭の眞如寺(江上正道住職)に、静岡県浜松市北区引佐町の臨濟宗大本山方広寺ならびに方広寺派檀信徒が団体参拝に訪れた。

昨年五月に眞如寺の鎮守「半僧坊大権現」を約六十年ぶりに御開帳した際、「半僧坊」の本山である方広寺より講社部長に御出頭頂いた



半僧坊に焼香される満100歳の大井管長猥下と森田前宗務総長

写真撮影：柴田明蘭氏



眞如寺の半僧坊大権現に奉納された木製「葉うちわ」

写真撮影：柴田明蘭氏

○出町青龍妙音辯財天「巳日巳刻法要」  
 五月二十九日、山内塔頭の大光明寺(矢野謙堂住職)の飛び地境内である出町青龍妙音辨財天(京都市上京区青龍町)において、第三回「巳日巳刻法要」が厳修され、佐々木契堂師(天正寺住職)、江上正道師(眞如寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)が出頭した。  
 当日は百名ほどの申込者や参拝者があり、法要では導師の矢野住職が事前に受け付けた参拝者の心願成就の祈願文を回向の中で順に読み上げ、辯財尊天御真言を全員で唱和した後、堂内で一人ずつお札とお守りを授け、大般若の経本で加持厄除けの肩叩きをしたあと住職が法話をを行った。尚、来年は五月十一日(水)の予定である。

## 第二教区

### ○第二教区子供研修会

四月二日、第五回子供研修会が、四名の子供

達の参加を得て開催された。初めて参加した子供達の中には、慣れない坐禅に悪戦苦闘していた子供もいた。しかし、「また来年も参加します」と言ってくれたので、少し安堵した。

午後からは、大本山南禅寺様を訪ね、西村義光信徒部長のご案内で特別拝観をさせて頂いた。懇切丁寧な説明を頂き、一同多めに勉強になった。来年度は、建仁寺様を参拝させて頂く予定である。

### ○第二教区総会

四月二十五日、午後四時より例年の通り教区総会が京都市左京区岩倉の是心寺に於いて、十一名の住職の参加を得て開催された。当日は、事務手続きを行った後、本堂で諷経をして総会に入り、昨年一年間の主な事業報告がされた。昨秋には、是心寺様の晋山式並びに退山式という大きな行事であり、当教区一同も加担をさせて頂いた。

総会後、薬石懇談会を行い閉会となった。



南禅寺三門の前で

## 第三教区

○瑞林寺夢窓国師每歳忌

三月二十九日、瑞林寺(三重県津市片田井戸町・長谷寺高山宗親兼務住職)では、大本山か



夢窓国師生誕地記念碑(最奥右)前にて



瑞林寺本堂で調経する僧侶と参列者

ら鈴木承天閣美術館事務局長、江上教学・庶務部員を拜請し、開山每歳忌を厳修した。

当日はあいにく小雨のため本堂前より生誕地記念碑を遙拝し、大悲呪一卷読誦拝塔諷經するなか、井戸町自治会長、顧問をはじめ町民こぞって参列焼香し、夢窓国師の遺徳をしのんだ。

## 第四教区

○若狭相国会 役員会

十一月二十九日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。今後予定の行事について協議した。

○宗務支所 支所会

十二月十八日、宗務支所支所会を開催した。定期巡教、少年研修会、岡山市曹源寺研修旅行等協議の後、懇親会を行った。

○寺庭婦人会 新年例会

一月十五日、寺庭婦人会新年例会を海岸寺に於いて開催した。新年度行事について協議した。

○若狭相国会 役員会

二月五日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。定期巡教、少年研修会、岡山曹源寺研修旅行等について協議した。

○宗務支所 支所会

二月二十日、宗務支所支所会を正善寺に於いて開催した。定期巡教日程、少年研修会、住職研修会、岡山市曹源寺研修旅行、相国会総会について協議した。

○若狭相国会「春のお説教会」

三月七日(九日)、若狭相国会「春のお説教会」を定期巡教にあわせて、若狭相国会主催で次の五カ寺を会場にして開催した。開教会

場は、円福寺・元興寺・南陽寺・潮音院・清雲寺。担当布教師は、方広寺派瑞雲寺梶浦邦康師であつた。

#### ○若狭相国会 少年研修会

四月二日、若狭相国会少年研修会を本山相国寺、鹿苑寺に於いて開催した。

児童五十一名、住職八名、相国会役員六名の計六十五名が参加し、鹿苑寺に参拝後、本山にて坐禅研修。斎座を頂き、太秦映画村にて研修。

#### ○若狭相国会 役員会

四月十一日、若狭相国会役員会を開催した。

平成二十六年若狭相国会会計監査、若狭相国会総会について協議した。

#### ○宗務支所 支所会・住職研修会

四月二十一日、宗務支所支所会・住職研修会を正善寺に於いて開催した。相国僧堂師家小林玄徳老大師を拝請し、坐禅・提唱。研修後、

定期宗議会報告、平成二十六年度教区会計決算等について協議した。

#### ○若狭相国会 総会

四月二十八日、若狭相国会総会を元興寺に於いて開催した。平成二十六年会計決算、平成二十七年会計予算等協議・役員改選の後、「儀山善来禅師（一八〇二—一八七八年）」について海岸寺住職石崎靖宗師の講話があつた。

#### ○寺院婦人会 例会

五月十二日、庭婦人会例会を善応寺に於いて開催した。

#### ○若狭相国会 役員会

五月二十五日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。新・旧役員引き継ぎ、岡山市の臨濟宗妙心寺派、曹源寺研修旅行等について協議した。

#### ○若狭相国会 研修旅行

六月二日～三日、おおい町大島出身「儀山善来禅師」の遺徳をしのび曹源寺研修旅行を開催した。檀家四十六名、住職十名の計五十六名が参加し、曹源寺（岡山市中区・妙心寺派）にて本尊・開山諷経後、原田正道老大師の法話を拝聴し、拝塔した。法縁をつなぐ研修旅行となつた。



#### 第五教区

#### ○出雲相国会 総会

五月十二日、東光寺に於いて平成二十七年出雲相国会総会を開催し、教区内の寺院和尚、寺院理事が出席した。

はじめに平成二十六年事業報告、決算報告を審議し承認。次に平成二十七年の事業報告（案）、予算報告（案）を審議し承認した。

今年度の主な事業は、「夏休み親子坐禅会」、本山相国寺の開山忌に合わせての「本山団体参拝」、「出雲相国会だより」の作成などである。

#### 平成二十七年（雨安居） 相国僧堂 在錫者名簿

和歌山（妙心） 観福寺徒  
京都（相国） 大通院徒  
京都（相国） 慈雲院徒  
島根（妙心） 海禅寺徒  
京都（相国） 瑞春院徒

足助厚堂  
鈴木承圓  
中山真周  
園山大穰  
須賀集信

宮崎（相国） 龍源寺徒  
岐阜（妙心） 萬福寺徒  
京都（大徳） 三玄院徒  
京都（大徳） 大仙院徒  
越中宗勇

昨年より始まりました洗建氏の座談会は、当初予定していたよりも回数が増え合計八回の座談会となりました。以下の通りの日程で行われました。

第一回 平成二十六年七月二十八日(月)午後二時打合せ、三時～五時(公開収録)

「西欧における(宗教—国家)関係の過去と現在」

第二回 平成二十六年八月二十五日(月)午後二時～五時(公開収録)

「明治期日本の宗教と国家」

国家神道体制下の宗教政策

宗教団体の近代化—自治の確立過程とその変遷

第三回 平成二十六年十月二十六日(日)午後一時～五時(公開収録)

「明治、大正、昭和戦時期日本の宗教と国家」(前回の続き)

国家神道体制下の宗教政策及びその変遷

宗教団体の近代化—自治の確立過程とその変遷

第四回 平成二十六年十一月十九日(水)午後一時～五時(公開収録)

「戦後期日本における宗教政策」

戦後における宗教法人法成立—文化庁宗務課とウツダード

第五回 平成二十六年十二月二十二日(月)午後十二時～四時三十分(公開収録)

「古都税問題(第三次文化観光施設税)と京都仏教会」

宗教法人法改正とその後の宗教政策

第六回 平成二十七年一月十七日(土)午後一時～五時(公開収録)

「古都税問題(第三次文化観光施設税)と京都仏教会」

宗教法人法改正とその後の宗教政策(オウム事件と宗教法人法改正)

宗教法人法の問題

第七回 平成二十七年二月十一日(水)午後一時～五時(公開収録)

「宗教法人法改正とその後の宗教政策(オウム事件と宗教法人法改正)と

京都仏教会の取り組み」

公益法人制度改革での公益性と宗教との関係を検証する

第八回 平成二十七年二月十二日(木)午前九時～十二時、午後一時～二時三十分(公開収録)

「日本の宗教界と次世代の宗教者への提言」

この座談会をもとに座談集の編集作業に入っておりますが、予定よりも編集に時間を費やしており、出版が遅れる見込みです。

また、この本と同時に作業を進めているのが、京都仏教会が企画した「古都税問題」を再考察する本です。「古都税問題」によって鮮明になった宗教と国家、行政との関係の問題点を明らかにし、「古都税問題」とは何であったのか、三十年を経た今、当時の国家、行政の関係者、寺院関係者、京都仏教会の関係者等、双方の側からの方々の証言、インタビュー等を通して分析、考察いたします。

これら二冊の本は、京都仏教会の顧問の先生方に加え、相国寺史編纂室研究員、藤田和敏氏にも協力いただきます。現代社会における仏教の存在意義とその役割とは何か、我々僧侶のみならず広く一般の方々にも認識をあらためていただくべく上梓いたします。

これまでに行った研修会の講義録を

ご希望の方は、手数料一千元を添え、  
下記の相国寺宗務本所内教化活動委員  
会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五―二三一―〇三〇一

FAX〇七五―二二―三三九九

ホームページ (<http://www.shokoku-j.jp>)

## 相国寺史編纂室だより ― 史料編中世の編纂事業 ―

相国寺史編纂室の業務の中から、『相国寺史』史料編中世の刊行にむけての編纂事業をご紹介します。

『相国寺史』史料編中世一・二は、相国寺勸請開山かんじょうかいざんの夢窓疎石が活動していた鎌倉時代末期から江戸幕府ができる直前までの時代を対象としています。その時代の日記や古文書を活字化した史料集は現在千冊以上刊行されていますが、編纂室ではそれらの史料集を解読し、相国寺とその塔頭・鹿苑寺・慈照寺・末寺など関係寺院に関する記事を収集しています。一口に相国寺関係と言っても幅広く、相国寺の伽藍に関することはもちろん、歴代の相国寺住持の事蹟がわかる史料、相国寺や塔頭の荘園についての史料など非常に多岐にわたります。鹿苑寺・慈照寺については、室町將軍の別邸北山第・東山山荘として使用された時期の史料も収集しています。また、活字になった史料だけではなく、相国寺や塔頭で現存している中世の古記録・古文書や、東京大学史料編纂所・国立公文書館・水戸彰考館・天龍寺・鹿王院など外部機関や他寺院で所蔵されている相国寺関係の未翻刻みほんてく史料も集めています。これらの作業を通して収集した相国寺関係の記事は一万点を超えました。

このなかから、相国寺やその塔頭の動向に深く関わる史料を厳選し、『相国寺史』史料編中世を編纂していきます。まずは史料編の第一巻「中世一」として夢窓疎石の事蹟から室町幕府八代將軍足利義政の治世期までを収載した史料集の刊行を予定しております。

創業明暦年間



〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221  
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352

ゴヨウハシチミヤ  
**0120-540738**  
9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)  
<http://www.shichimiya.co.jp/>

夢のある空間づくりのパートナー



トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理  
**TOTAL DISPLAY**  
**FUSHIMI KOHGEI**  
株式会社 伏見工芸

[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地  
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465

[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地  
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254  
e-mail: fushimi\_d1.dion.ne.jp

税理士 奥谷 昌雄  
税理士 内藤 誠

〒602-8026  
京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地  
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461

*Future Active Alliance*

**office やまと**

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで  
IT環境のトータルアドバイザー

本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13  
TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494

中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極大宮西2丁目29-62  
TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770  
E-Mail: info@office-yamato.net



社寺の電気、空調、防犯、防災設備

**有限会社 土橋電気設備**

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4  
まちゃまちゃ 105号  
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 **表現社**

〒602-0861  
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る  
TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354  
<http://www.hyogensha.net/>

式典写真、風景写真など  
あらゆるニーズにおこたえます！

**柴田明蘭**  
写真事務所

(公益財団法人) JPS 日本写真家協会 会員

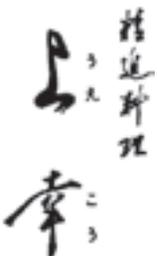
☎ 090-8387-7735  
FAX 075-311-9369

〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリュー四番 603

大本山相国寺御用達

社寺建築 (株)北村誠工務店

〒603-8225  
京都市北区紫野南船岡東町45  
電話京都 (075) 441-0563  
FAX京都 (075) 441-0571



〒604-1835  
京都市中京区大宮通錦上ル  
電話〇七五八二二一三三七二

大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

**樋口造園 (株)**

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル  
電話 (075) 462-1385  
FAX (075) 464-6120

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

**(株)後藤利法衣店**

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル  
電話 (075) 221-4587  
FAX (075) 223-0094  
フリーダイヤル (0120) 014587

大本山相国寺御用達

精進料理

**矢尾 治**

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358  
電話 (075) 841-2144  
FAX (075) 841-2110  
<http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp>

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達

社寺建築 設計・施工  
数寄屋建築



**澤甚 株式会社 澤野工務店**

本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2階目東入  
TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775

山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)

貴重な御法衣の御用は  
大本山相国寺御用達

**後藤新助法衣仏具店**

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地  
電話(代表) (075) 462-3915 番  
ファクシミリ (075) 462-3616 番  
URL <http://www.rinzai.jp>  
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

大本山相国寺御用達

**藤安田念珠店**

〒604-8072  
京都市中京区寺町六角角  
TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730  
<http://www.yasuda-nenju.com/>



ANA  
CROWNE PLAZA  
KYOTO

世界の歴史都市、  
京都の中央に位置し、  
世界文化遺産「二条城」の前に佇む  
ANA クラウンプラザホテル京都。

## ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
Tel 075-231-1155  
www.anacpkyoto.com



大本山相国寺御用達  
社寺庭園・町屋庭園・露地庭  
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3  
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

## ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045  
京都市南区東九条西明田町34-21  
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767  
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

## 印刷を極め、印刷を超える



ヨシダ印刷株式会社 関西支店 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御地下丸三坊西洞院町572 [滋沢本社] 1921-8546 石川奥金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141 (代)  
TEL.075-252-5421 (代) FAX.075-252-5423 [東京本社] 〒1130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL 03-3626-1301 (代)  
URL <http://www.yoshida-p.jp/> E-mail: info@yoshida-p.co.jp [営業所・工場] 大阪・富山・福井・江東瀬岡



なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…  
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**

<http://www.kyotobank.co.jp/>

# JTB

感動のそばに、いつも。

**(株)JTB西日本 団体旅行京都支店**

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 AYA 四条烏丸ビル2F

**TEL.075(284)0173 FAX.075(284)0153**

担当：酒井 健次（営業時間 9:30～17:30／土・日・祝日休業）

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。  
生前贈与や万一の備えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を  
どうぞご利用ください。

**元本保証・管理手数料無料**

相続の準備に、簡単・確実な方法があります。



生前贈与信託  
「おくるしあわせ」



教育資金贈与信託  
「まごよこぶ」



相続型信託  
「ずっと安心信託」

ご質問はこちら

**0120-06-4087** ご利用時間 / 平日・土・日 9:00～17:00(祝日等を除く)

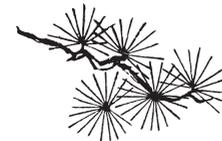
 **三菱UFJ信託銀行 京都支店**

お申込みはこちら

**TEL.075-211-7161**

電話受付/平日9:00～17:00(土・日・祝日等を除く)  
京都市京都市下京区四条通高倉東入立売中之町45

[www.shoyeido.co.jp](http://www.shoyeido.co.jp)



# 香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松榮堂**

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595

東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969

札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 [www.dnp.co.jp/denshoubi/](http://www.dnp.co.jp/denshoubi/)

**DNP**

大日本印刷株式会社 [www.dnp.co.jp](http://www.dnp.co.jp)

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

## 橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側  
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式  
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん  
**浩悦庵**

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地

TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022

東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位  
自園茶 農林水産大臣賞 30 回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねんのみどり  
萬年の翠

御薄茶

じょうこう  
常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地  
お問い合わせ(0774)200909  
・ジェイアール京都伊勢丹店  
地下一階 銘茶コーナー  
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休営業  
・京都市中京区西洞院通御池下ル  
電話(075)2230909  
「お取り扱い」全国有名茶店・茶道具店  
[www.marukyu-koyamaen.co.jp](http://www.marukyu-koyamaen.co.jp)

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。お盆も近づいて参りましたが、御先祖様の一年ぶりのお里帰りを気持ち良くお迎えしたいものです。『円明』第104号をお届けいたします。

◇「仏道定款」をお示しいただいた小林玄徳<sup>てんかん</sup>老大師はじめ、今号にご寄稿頂きました諸氏には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◇前号でもお伝えしたように、臨済禅師1150年・白隠<sup>おんき</sup>禅師250年両遠諱<sup>おんき</sup>関連行事が各地で始まり、特に「報恩坐禅会」は盛況のうちに終了したと聞き及んでおります。来年の正当年に向け、引き続き臨済宗黄檗宗連合各派合議所の当番本山である相国寺も各行事、法要に協力して参ります。

◇同じく担当本山として係わる「臨済宗連合各派布教団本部」も無事1年目を終えました。布教団所属の和尚様方と各研修会を通じて接しますと、布教活動の大切さ、超高齢化社会に向けて発信するメッセージの重要性を痛感させられます。

◇今秋11月には、相国寺東京別院落慶法要が控えております。現在庫裡事務棟において東京維摩会(坐禅会)を行っておりますが、落慶後は本殿で行います。今後特に関東方面在住の方はじめ、会員諸氏の積極的参加を希望いたします。

◇猛暑の砌、相国寺派檀信徒、相国会の皆様、本派寺院ならびに関係各位におかれましては、御自愛専一に祈念申し上げます。

(矢野謙堂 記)

えん みょう  
**円明** 平成27年夏号(第104号)  
平成27年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591  
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail [kyogaku@shokoku-ji.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.jp) (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。



鮎割烹  
たつみほし

祇園 白川 葵橋畔  
静かな佇まいに  
せせらぎを聴く

〒605-0084  
京都府京都市東山区八坂新地清本町 371 番地 4  
電話 (075) 531-1184

京の老舗



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

**キョウテク株式会社**

本社

TEL **075-415-0100** FAX **075-415-0089**

〒603-1843 京都市北区小山上総町10番地1 キョウテク北大路ビル2F

# 相国寺 秋の特別拝観

京都今出川  
鳴き龍の寺

平成27年9月25日(金)～12月15日(火)

※10月18日(同)～21日(火)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。  
※10月3日(土)、4日(同)、5日(月)、12月8日(火)は法要のため拝観時間に一部変更があります。

拝観時間：午前10時～午後4時 拝観場所：**法堂**・**方丈**・**開山堂**

拝観料：一般・大学生 800円 / 65才以上・中高生 700円

※団体割引有り ※法要・行事のため、予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。



方丈法華観音(文字絵)



法堂と紅葉



法堂内部

宝 物  
拜 見

## 色絵龍田川文透かし鉢 尾形乾山造

江戸 慈照寺蔵



尾形乾山(一六六三～一七四三)は琳派の第二期を飾った代表的な陶芸家で絵師。京都の呉服商「雁金屋」の三男。光琳の弟。元禄十二年(一六九九)三十七歳の時、公家二条綱平の斡旋により京都の北西鳴滝に開窯し、陶芸に専念。この地が都の「乾」方角にあたることから、「乾山」と号した。本作、琳派の主題とする古典文学に因んだ銘が付けられている。由来は「ちはやぶる 神代も聞かず龍田川 からくれなゐに 水くくるとは『古今和歌集』・在原業平」と詠われた紅葉の名所大和(奈良県)の龍田川に因んだものである。乾山独特の上絵付技法により実に華麗に描かれている。浮き沈みつつ流れゆく紅葉の葉を赤・黄・緑色で、龍田川に渦巻く波を青色で画いている。端返りで縁を削ぎ、透かし彫りを施した造形は、乾山芸術の傑作とされている。

作品解説 / 承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲

現在の展観

## 「伊藤若冲と

## 琳派の世界」

～平成27年9月23日



今年、伊藤若冲（一七一六～一八〇〇）生誕（数え）三百年となります。そして琳派の創始者とされる本阿弥光悦が洛北鷹峯に芸術村を築いて（二六一五）、今年で満四百年を迎えます。若冲は京都錦の青物問屋「枡源」の跡取り。光悦は刀剣の鑑定、研ぎを生業としておりました。同じく琳派の尾形光琳・乾山は京の呉服商「雁金屋」の子息。若冲も琳派の絵師達も皆富裕な町衆の出身でした。この度、この節目の年を記念し、相国寺・鹿苑寺・慈照寺に伝わる若冲と琳派の名品の数々を同時に展示しております。ぜひ御高覧下さいませ。

次期展覧予定

## 「岩澤重夫展」

前期／平成27年10月3日～12月6日  
後期／平成27年12月12日～28年3月21日



「春の溪」岩澤重夫作（平成14年）・第34回日展出品 承天閣美術館収蔵（岩澤有徑氏寄贈）

岩澤画伯は日本画家。堂本印象に師事。平成二十一年没。八十二歳。紺綬褒章、日本芸術院賞、文部大臣賞を受賞。雄大な風景画や細密な花鳥画等を描き、独自の画風を確立し日本美術界の発展に大きく寄与されました。画伯は大分県日田市出身。管長猥下が若い頃、同市の岳林寺で修行されておられた縁により、鹿苑寺客殿に障壁画の作成を依頼。平成二十一年、亡くなる約二カ月前に全六十三面を完成させておられます。この度その御子息で現代芸術家の岩澤有徑<sup>ありみち</sup>氏の御好意により、氏の所蔵作品や、画伯の郷里日田市、また京都市内の美術館等で収蔵されている画伯の遺作を承天閣で一堂に展観する事になりました。作品数が多いため、前期と後期に分けて展示する予定でございます。ぜひ御高覧下さいませ。

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

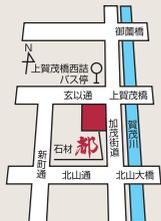


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間 / AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ 電話(075)491-4114(代)  
(上賀茂橋西詰バス停前)  
工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440  
(洛北病院バス停前)  
夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

さん がい ばん れい じつ ぼう し しん

三界萬霊 十方至聖

この世のあらゆる生命を尊び、供養する

三界とは欲界(欲の世界)・色界(物質の世界)・無色界(精神だけの世界)を指し、萬霊とはそれらの世界の精霊を指す。すべての場所の、餓鬼畜生に至るまでをも尊び供養する心、その表れが「三界萬霊塔」である。

慶安四年(一六五二)建立



撮影◎教学部(相国寺墓苑)